時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送ルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク
時事新報廣告料前金一行ニ付

| 一行廿四字詰 | 一日 | 二日以上 六日迄 | 七日以上 十五日迄 | 十六日以上 |
|---|---|---|---|---|
| 白一行至十行 | 十錢 | 八錢 | 七錢 | 二圓六錢八厘 |
| 白十一行至卅行 | 九錢 | 七錢 | 六錢 | 三圓五錢九厘五毛 |
| 三十一行以上 | 八錢 | 六錢 | 五錢 | 五錢八厘五毛五錢五厘 |

# 時事新報

## ヴンクーヴー汽船航路と日本との關係（前號の續）

志賀重昂

（第二）北海道との關係　北海道ハ日本の亞米利加なり日本新農政策の大試驗場なり新日本の剛強なる子孫を產出する箇所なり北海道の日本致富上に關するや大なりと云ふ可し而して過去現在未來共に同道の殖產上に著しきものハ沿岸所在の無盡藏たる海產物にして其大販路は清國あり而して近來ろの海產物を上海以北に輸出するは少なからずと雖ども以南の地方にハ未だ至らざる處多しと云へり壓重運搬の便宜に乏しきが故ならんかれば若しも北海道海產物の中心市場たる函館港より香港迄で直航の定期汽船あらしめば其物產は支那の南部に漸く販路を發見するや疑ある可らず、爰に加奈陀太平洋汽船は瓦嶋より我横濱に至り夫れより香港に渡航する者なるを以て若し此航路を少しく變更し横濱に代ふるに函館寄港のことゝもならば北海の海產物は忽ち支那の南部に侵入するの道を得べし

偖瓦島汽船を函館に寄港せしむるの議論は素より無稽の空想にあらず何となれば第一函館は北邊に在るを以て瓦島より横濱に到るよりも其航程を短縮するの便利あれバなり第二桑港太平洋汽船は在來横濱との間に定期航海をなせるを以て加奈陀太平洋汽船は寧ろ横濱以外の開港場との間に定期航海を開くを以て得策なりとあせばなり第三日本潮流即ち黑潮は奧州北海道の沿岸を洗ひ平均一時間二海里乃至三海里の速力を以て北東の方向に流るゝを以て横濱より米國ゑ航海する船舶はまれに乘じて船の進度を增殖せんとゝ故ならに北海道の沿岸と迂廻すると例とせり然れば瓦嶋汽船が香港より歸航するに當り函館に寄港するも些少だに迂遠と云ふ可からざればなり

左れば又前に論述ゝさる如く瓦嶋汽船と日本將來の農業策とを對照すれば此大農業は今日尙未だ地力を盡さゝるの地方即ち奧州北海道の平原に於て實施すべきものなるが上に其種牛は瓦嶋近傍より輸入すると以て得策あり之れば此處に陸揚げをなは運搬の費用と省くのみならず其函館ゑ寄港する際に東京青森間の鐵道も落成す可ければ瓦嶋汽船に乘て函館に寄着しさる歐米旅客の中には日本の內地を見ずんとして喜んで青森よりの汽車に搭じて東京に到る者もある可し是れ亦偶然の利益なり故に今試に此事業と成就するの順序と云へば先づ函館市民をして瓦嶋汽船に寄港に付き利益あることを悟らしめ市民協同して港灣の改良特に波止場の長大にして堅固なるものを新造ゝ灣の西岸龜田川の水源に樹木を增植して其流砂と天然に防禦し（防砂の工業は落成したりと傳聞せれども固より人爲あるとゆて遠大長久の計畫に非ず人爲の工業を竣成しさる上は同時に天然の防禦策をもせざる可からざるや必せり）以て大汽船の往復と次第に便宜あらしめ而して後全市民の名義を以て加奈陀殖民政府並に瓦嶋汽船會社と談判を試みるに在り其成否い固より期し難ゝと雖ども雙方利益の所在を明にするに於ては早晩その實施と目擊もるの日ある可しと余輩の信して疑はざる所なり

（第三）日本人民の移住　海外遠征れ氣風い內外れ刺戟に因りて我人民の腦裡に浸染し來り輿論等しく北米合衆國を以て移住ゝ適する地方と認るるものゝ如し然れども元來北米合衆國ハ歐洲各國人民れ問屋場の如きものあれば我人民の緩漫なる腦力と軟弱なる身體にて斯る強爲大膽なる西洋民族と競爭して未だ必ず全勝と期し難し然るに幸あるは爰に加奈陀の地方は山河千里、平原茫々日本人民が容易に他の競爭に觸れずして安ん玄て業に就く可き天與の樂土なり蓋し日本の人口は年々四五十萬の增殖なれば其溢出れ地方と他に仰ぐは遊く可らざる要用にして其地方は氣候甚だ嚴なら ず して交通往來の便住民は少なく、競爭者甚だ多からずして而して今や加利い乏しらざるものと撰ばざる可ふず奈陀の地方は正しく以上諸般の注文に叶ふものあれば日本人民將來の移住地は必ず此方向ゑ定まるふとあらん即ち瓦嶋汽船の日本人民前途の進退に關係するや大なりと云ふ可し世の有志者の當さに注意す可き所のものなり

論じ去り論じ來れば予輩い日本の公衆幷に當局者ゑ希望するに我日本ゑ英領コロンビヤ幷に瓦島との關係を着々密接にすべき方策を計畫せん事ゝ以てするものあり而して其第一着の方策に一箇の名譽領事をヴァンクートリヤ府若くハポルト ムーデヤー に置くなどは最も大切なることならん元來名譽領事あるの者は其地方に永住する人士にして名譽財產に富む者ゝ撰定ゑこれに領事の責任を囑托する者なり故に其幷酬い特に些少なれども撰に當りたる者い自己の面目名譽の爲に喜んで之に應するの例なれば我政府に於ても之々爲めに特ゑ費用と恐るゝにも足らず唯ろの人物と撰ふに瓦嶋未開れ地方に在て事を處とる者あるが故に他れ英佛諸國に在勸する領事とい自から風と異にし外交上の機智を以て得意と爲すよりも寧ろ生產上の事業に通曉する人士にして時々其所在地方れ農商況を綿密に報告して彼此の關係を密着あらゝめん事を是れ力むるが如き者を所望するのみ

之ゑ要するに我日本と英領コロンビヤ幷に瓦嶋との關係を密接あらしむ可きは實に物理界人事界の大原則に協ふものあるが故に予輩は以上の論旨を記述して是れを日本公衆の輿論ゑ訴へ之を我生產社會の企業心に訴へ以て公明正大虛心平氣なる批評を乞いんとするものなり讀者諸ふ漫に多情多恨なる小詩人が妄想とおす無くんバ幸甚のミ（完）

## 官報

○海軍省訓令第百二十二號
繫留艦及其附屬艦繫留港外ニ航海スルトキハ出港ノ日ヨリ一週日ヲ除クノ外ハ航行ノ役務ニ服スル艦トス
明治二十年十一月二十二日　海軍大臣伯爵西鄕從道

○海軍省訓令第百二十一號
海軍下士卒ニシテ教員ノ職ヲ執ラシムル者ハ服務日數ニ算入ス
但公暇日ハ服務日數ニ算入ス
明治二十年十一月二十二日　海軍大臣伯爵西鄕從道

○大藏省告示第百六十號
海軍一般
一番桑畑樹　取木千本代價金弐拾圓
一全　接木千本代價金弐拾五圓
一全　二年子千本代價金三拾圓

## 雜報

○獨露兩帝の會合に關する說　露國皇帝は伯林に到り獨逸帝に面會あり歸路には兩帝相伴ふて露京に赴くならんとは歐洲政治社會一般の噂あるが十月二十二日伯林發の一報に據るに獨逸の官報は兩帝會合の說い無根なりとて再三之れを辨駁すれども露國に對して隨分嚴重なる詞を用ひ兩帝の會合は獨逸の高き邊の人々の好まざる所なりと說きたり蓋し歐洲の政治に關しては曾て一度び肝腎なりし兩帝の交情も最早永くは續かざるべき何となれバ獨逸が伊太利壤地利の兩國と同盟と表するの一事い取も直さず露帝との中を割くものなればなり況んや露の今帝は元來獨逸嫌ひあれば先帝の如く獨逸の帝室人民に對して友情を表する事は永く忍ぶ能はざる所なるべし左れば假令へ兩帝の會合ありとも共に不愉快あるに相違あし然るにこの原因の外に獨露兩京の新聞紙は互に兩國の惡口雜言を壽立て獨逸新聞は露國がバルガリヤに對するの所置は甚だ唐突にして三國同盟の約束を破りたるものなりなど放言すれば露國の新聞紙も之に對して夫れ相應の口返答となし兩國の政府にては見て見ぬ振して之れを禁せず左れば今歐洲滯留中なる露帝い其歸途を何れに取るならんか斯る物騷の折柄、獨逸領內と通行するは甚だ以て快からぬ次第なれバ少々は塞氣を侵してなりともルチック海に依り歸國するおらんゑと噂し合へり

○地方衛生會　東京府にてゑ昨日議事堂に於て地方衛生會議員參集し高崎府知事其議長とあり東京府內衛生上の件に付會議を開きたりと

○橫須賀の演說會　神奈川縣下橫須賀の有志者古谷正橋、井上三郎、鈴木忠兵衛等諸氏の發起にて去る二十日東京より小高純一、荒川高俊、山川壽太郎の三氏を聘し演說會を開きたるに聽衆は無慮千餘名あり退散の際機敏が落ち崩れさる程の盛會なりしが右了て同所の福嶋樓に於て特別有志の懇親會を開きたるゑ出席者は四十餘名ありきといふ

○生徒の遠乘　學習院馬術生徒の內坊城俊延、長森小太郎、河部田鶴雄、本莊忠勇、高松公重、押小路實敬、鈴木松二郎、平野長祥の諸氏は千葉縣下總國東葛飾郡撿見川驛へ向て第二回秋季遠乘として去る廿日午前五時卅分本院を發し市川渡船場及び船橋驛に少憩し午前十時卅分撿見川驛へ着し午後一時廿分より歸路に就き往復里程凡十六里にして七時卅分間を費したるよし

○法律教育講談　前號の紙上に記したる如く去る二十日午後三時より一ツ橋外なる第一高等中學校內の講義室に於て開きたる增嶋六一郎氏の法律教育論講談は入場者二千名內外にして三時後に來りたる者は入場れ餘地あく空しく歸り去れりといふ情同氏は同日限に其大要と演ゑ終りたるは來る廿七日の次會は開かざるよし

○函館の水道　同地ゑては今度愈々水道敷設工事と起す事に決し資本金と募集しさるゑ暫時にして共有金と共に十五萬圓を得たる次第い去る十八日の本紙上に記しさるが尙ほ開く處に據れば右工事の豫算費い二十三萬五千圓にて區內共有積立金、共有財產賣却代道廳よりの補助金を以て之に充て其不足の分い人民の負擔と

小生儀今般翌町區永田町二丁目廿九番地ヘ轉居候ニ付不取敢厚知諸君ニ報道ス
當區新在會取仕組本月廿三日中村
金子彌平

桑畑樹販賣廣告
一番桑畑樹　取木千本代價金弐拾圓
一全　接木千本代價金弐拾五圓
一全　二年子千本代價金三拾圓

日光賣地廣告
一地面千八百坪貸間向キ建家百坪附屬ス
但毎年凡四百圓許ノ收入金アリ
四谷忍町十三番地　八百鮑

競賣
鐵、鉛、眞鍮
他色々